

# 高等学校における自殺予防に関する実践

## 東京都立足立東高等学校

### 1 教育相談委員会を核とした校内支援体制の活用

#### (1) 教育相談委員会組織の確立

副校長・保健主任（主幹教諭）・1学年特別支援教育コーディネーター・2学年特別支援教育コーディネーター・3学年特別支援教育コーディネーター・教育相談委員・養護教諭・（ケースによりスクールカウンセラー）

※ 学年の特別支援教育コーディネーターは学年会との情報交換を担う。

#### (2) 委員会の開催

- ・ 定例会を実施。毎週水曜日 3時間目（時間割の中に設置）
- ・ 臨床発達心理士、精神科医来校時に臨時開催する。

#### (3) 委員会の内容

- ・ 生徒理解のための情報把握・情報収集
- ・ メンタルヘルス健診、拡大学年会の企画・運営
- ・ 希死念慮、発達障害等、特別な支援が必要とする生徒の把握と支援対策
- ・ アンケートの作成、実施、考察、活用
- ・ スクールカウンセラー・精神科医との連携、日程調整
- ・ 臨床発達心理士を活用した相談の企画と進行  
保護者面談の設定、保護者へ理解の説明、本人へ説明、承諾、検査、検査結果をもとに支援策の検討、担任、保護者へのフィードバック・教員への周知、理解協力
- ・ 外部機関との連携  
近隣区小・中特別支援教育コーディネーター研修会・ハローワーク・思春期ネットワーク
- ・ 研修会の企画、運営

### 2 メンタルヘルス健診の活用

(1) 日時 1年生 4月10日～13日 4日間 2,3年生 5月8日・13日 2日間

(2) 対象 全校生徒

(3) 目的 ・生徒一人一人のメンタル面から健康管理と健康指導の充実を図るための資料を得て個々の生徒のニーズに望ましい支援を探る一助とする。  
・ 生徒一人一人の意識を捉えることで生徒理解の深化に役立てる。  
・ 生命に関わる事件・事故の予防に活かす。

(3) 企画、準備、運営・・・教育相談委員会を中心とした健康・環境部教員

実施者・・・1年 巡回相談員 臨床発達心理士 2名  
2,3年 精神科医、臨床発達心理士 5名

(4) 方法 ・ 事前調査 「高校生の意識調査」（東京都教育相談センター作成）  
「生活習慣アンケート」（本校作成）

- ・ 1対1の面接形式 一人5分程度

### 3 教職員研修の開催（教員へのフィードバック）

#### ① 「高校生の意識調査」活用についての研修会

結果の解釈と対応について

東京都教育相談センター 今村 泰洋 氏

② 希死念慮経験のある生徒への対応

メンタルヘルス健診結果から

東京大学精神科医 小池 進介 氏

③ 「生徒の実態をふまえ、望ましい支援の在り方を考える」

メンタルヘルス健診から

臨床発達心理士 菊池 真由美 氏

※ その他、拡大学年会議、職員会議にて個々の生徒について情報交換を行なった。

4 こころの健康教育の実施 「自分を大切にしよう」

① 対象 第2学年 各クラス50分

② ねらい 近年、高校生の男女交際をみると、安易な性行動により自分や相手の健康に影響を及ぼし、望まない妊娠等人生を大きく変えてしまうケースがある。本校においても、このような状況がみられ危機感を持っている。また、日常の悩みやストレスからリストカットなどの自傷行為もみられる。そこで、自分を大切にする心を養い、自分の将来を考えてよりよく生きようとする行動選択ができる態度を育成したいと考えた。

③ 内容 ・ ストレスを解消するには

・ デートDVとは

・ ひとりで悩まないで

④ 講師 足立保健所保健予防課 心といのち支援担当課長 馬場 優子 氏

足立保健所保健予防課 心といのち支援担当 中村 加奈重氏

足立区保健所東和保健総合センター地域保健係 森川 千代子氏

※ 平成23年度3月には足立区心といのち支援課主催のライフスキル講座、人形劇

※ 「たいせつなきみ」(たいらじょう氏)を2学年が鑑賞した。